

ExtraNews @ カンボジア

現在カンボジアのTシャツを使用したTMオリジナルシャツの作成を進めている。人件費や関税がかからない同国はもともと繊維業界が盛んでGAPやH&Aなどの大手アパレル社の工場があり、中国系繊維商社の進出も活発だ。価格の割に品質が良く丈夫で、生地も世界で通用するというのだ。



シャツのデザインを引き受けてくださるのは毎年パリコレに参加し、恵比寿にお店を持つ土屋順士デザイナー。カンボジアは1863年から1953年までフランスの保護国であったので、土屋氏はパリに留学中多くのカンボジア人と交流があり、本事業の依頼を快諾してくださった。人と人の心の交流が国際支援の原動力となることを実感する。

土屋氏プロフィール

1971年兵庫県生まれ。3歳よりミシンを踏み始める。中学、高校と洋裁、絵画の様々なコンクールで入選。93年まで国際基督教大学にて言語学を学び、卒業後に渡仏。パリにある服飾専門学校でデザイン、裁断を学びつつ、98年まで「シンイチロウ・アラカワ」のもとでアシスタントを務め、98年独立。同年「JUNJI TSUCHIYA」を設立しパリにアトリエを構える。98年3月パリ・コレクション初参加。以後、年2回の発表を続ける。2000年より東京での展示会およびプレゼンテーションを開始。東京恵比寿にてSHOWROOM & アトリエオープン。2005年初のメンズブランド「ディオニソス」を立ち上げる。
<http://www.junjit.com/>

「アジアの子供達に未来を」常時ご寄付を集めています。

- ・名義「特定非営利活動法人 T・M良薬センター」
- ・銀行「群馬銀行本店 普通 2134150」
- ・郵便局「00160-5-591781」

表紙写真／ヤタナサンピヤ寺院で修行するサイクロン孤児
印刷協力／群馬県沼田幼稚園

ロンボークラブ 15



T・M良薬センター ニュースレター

ミャンマー / カンボジア



「あたりまえをあの子にも」

会報 第15号

平成21年 7月1日
T・M良薬センター事務局
Tel&Fax : 027-254-2325
E-mail : office@tmrc.jp
<http://www.tmrc.jp>

ミャンマープロジェクト

サイクロン孤児院

日蓮宗の寄付により建設中であったサイクロン孤児の支援施設「ヤタナサンピヤ妙法学校」がこの度完成し、5月末落慶式ツアーが実施された。また、6月には北部ザガインの調査が行われ、ハンセン病支援の学校「マイトリー・スクール」やロータリークラブが寄贈した井戸を訪れた。

孤児院完成

台風の直撃を受けたエヤワディ管区ボガレイで行き場をなくした子ども達が、ヤタナサンピヤ寺院に100人以上集まり、現地の僧伽から緊急支援要請を受け、境内にその収容施設を寄贈した。ドナーとなったのは日蓮宗と日蓮宗社会教化事業協会。5月に完成した施設は「ヤタナサンピヤ・サッドルマ・リピサーラ」と名付けられ、孤児の笑顔に囲まれて落慶した。

同校は強風に飛ばされないように、コンクリート造りの平屋建て。孤児は同寺院の小僧さんとして出家し、一般の子ども達も通えるように門戸を開いて、僧侶による仏教教育が施される。今後「ほほえみ図書館」活動を通して、日本から文房具などの支援を継続したい。被災地の子ども達の教育振興のためご協力をお願いいたします。



第4校目建設地選定



埼玉県東松山市妙昌寺の村井惇匡住職は、入寺後檀信徒から寄せられたご寄進を有効利用できないかと考えていたところ、当「妙法学校」事業を知り、ドナーとなることを決意された。4月同寺で檀信徒が見守るなか建設資金の贈呈式が行われ、5月29日～6月1日現地調査を実施、建設予定地が

決定した。首都プノンペンから南へ約130Km、カンポット県チュック郡チューティオ（Cheuteal）村。既存のアウンシュク学校は近隣4ヶ村（合計約1500戸）から子ども達が通学しパンク状態。老朽化した同校は教室不足で小学校までしか通うことが出来ないが、次年度中学進学希望の生徒は100人を超える。中学校新校舎の建設は村人全ての悲願である。村井上人の同意を得て建設が始まる。



井戸を寄贈

時同じくして山形県妙円寺の安芸栄祥住職から山形社教会の名で井戸掘削費用の支援があり、ため池の雨水を使用している住民のために、同校から5Kmに位置する、同じ学区内のカラヒノ村に井戸を掘ることが決まった。汚染水により乳幼児の死亡率が高く、村人から井戸提供の依頼を受けたところだった。現在のように乾期に入るとため池が乾き、学校近くの池まで水を汲みに来なければならないという。井戸が完成したら子ども達には、毎朝綺麗な水で顔を洗って勉強に励んでいただきたい。

藤岡南ロータリークラブからサッカーユニフォームとボールが寄贈され、ツアーに参加した同クラブ会員の神子田遙藤岡市サッカー協会会長の指導のもと練習が開催された。



モハーリ校落慶式



大歓迎をうける「アジアの子ども達に学校贈る会」の松原さんと赤崎さん。村人総勢600人がお祝いに集まった。

藤岡市内の学生達は4年前からアルミ缶などのリサイクル品を回収し、

コツコツと資金をためてきた。毎年5月5日にはエコ祭りを開催し、啓蒙活動にも努めた。父兄の後援を受けながら、この



度ついに学校を贈ることが出来た。モハーリ村の子供達約200人が通学する。「当たり前をあの子にも」



ヤタナサンピヤ寺で落慶式



当ツアーに同行した日蓮宗伝道部の横井通決師から感想をいただいた。「サイクロンから7年たらず、子供たちの無邪気な笑顔と、それを守ろうとする地域の人々から、生きる強さと大きなやさしさを感じました。帰国後、写真を眺めながら「ちゃんと勉強してるかな」「風邪なんかひいていないかな」と遠くの子供たちに思いを馳せています。今回このような縁を戴き、大切に思える存在がまた増えました。」

マイトリー・スクールその後

「ハンセン病村」が点在するミャンマーは未だ差別が絶えない。親が発症することによって健全な子ども達までも犠牲になっている。平成15年5月に設立されたT・M良薬センターが、最初に取り組んだ事業が、この「マイトリー・スクール」の建設。ハンセン病村に立派な学校を建て、国に寄贈することで、国営の学校として運営されている。図書室と保健室を併設した同校には、この村の子ども達はほぼ全員、他の地域の子どもも多く通学している。



ザガイン調査に同行した田村照明日蓮宗群馬県宗務所所長と横須賀中央ロータリークラブからのご寄付でザガインの子ども達に図書850冊を寄贈しました。辞書や参考書、絵本などです。ご協力感謝申し上げます。

現在「マイトリー・スクール」は5年生までしか教えることができないが、同国は小中一貫校の8年制が一般的。子ども達にとっても8年制を卒業することは重要である。

当校長と相談したところ、国に申請するには6, 7, 8年生を担当する教師3人を新たに雇い、8年制を3年間継続しなければならないとのこと。現地採用する場合月給5千円。1年6万円×3人で、年間18万円が必要になる。マイトリーは慈愛という意味。仏の慈悲でハンセン病差別をなくしたい。子ども達の未来のためにスポンサーを募集いたします。



井戸その後

沼田・藤岡南の両ロータリークラブによりザガインの村々に寄贈された井戸の調査に向かったところ、見あたらない。ミャンマー事務所長のタンさんが車を止めて村人に尋ねたところ、「日本人が掘った井戸はこの道に戻ったところ」だそうで、Uターンしてやっと見

つけました。“井戸端会議”とはよく言ったもので、なんと何もなかったところに売店ができたり、小屋が建てられたりして住民の憩いの場が変わっていたのだ。通り過ぎるわけです。現在雨期で井戸はお休みですが、オアシスができていました。



カンボジアプロジェクト

「妙法学校」次々と

貧困地域の子どものために学校を建てる「サッドルマ・リピサーラ（妙法学校）プロジェクト」が着々と進み、ポアンピール校、アントマイ校、モハーリ校が完成。また新たに4校目のドナーが現れ、必要かつ急を要する建設予定地が選定された。



ミン・キン宗教文化省大臣とツアー団

はじめに3月4日～9日に実施されたアントマイ校とモハーリ校の落慶式ツアーを紹介。リサイクル運動を通して、この度モハーリ校を寄贈した「アジアの子ども達に学校を贈る会」の学生2人も同行して、子ども達と触れあった。

青空の下赤レンガが映えるアントマイ校は、東大阪市宝樹寺（和田龍昌住職写真右）がドナーとなってこの春完成した。職員室と5教室のコンクリート建て。落慶式では大阪市の寺庭婦人会から制服の寄付があり、和田師から生徒1人1人に配布された。子ども達は早速真新しいシャツに袖を通して、カメラに向かってポーズをとったり、嬉しそう。

